

2013年度第1回西東京ボランティア・市民活動センター 運営委員会会議録〈確定稿〉

- 開催日時：2013年5月14日（火） 午後6時30分～8時30分
- 開催場所：田無総合福祉センター 第3会議室
- 出席委員：五十嵐強、内田日出子、小嶋弘、田中紀子、種村明頼、松尾浩邦、安富眞理子
〈以上7名、敬称略、五十音順〉
- 欠席委員：阿部恵子、岩崎麻里奈、鈴木紗衣〈以上3名、敬称略、五十音順〉
- 事務局：栗山孝一（事務局長）、丸木敦（地域福祉課長）、長山清美（コーディネーター）
篠原保之（係長）

事務局より欠席委員の報告。事務局長より挨拶。

1. 委 嘱 状 交 付

事務局長より委嘱状交付

2. 委員長・副委員長選出

委員長に五十嵐強氏、副委員長に内田日出子氏を互選にて選出。

委員長、副委員長就任の挨拶。

各委員より、自己紹介。

3. 報 告 事 項

(1). 西東京ボランティア・市民活動センター業務報告

配布資料を確認して、報告を行う。

事務局：3月～5月の事業報告。

6月2日(日)にボランティアのつどいを実施予定。開催に向けて実行委員会を開催中。
4月に「東京ボランティア・市民活動センター連絡会」「北多摩北部ブロック連絡会」が開催されたが、欠席した。HP検索数では、3月からボランティア保険に関するアクセス数増加。「図書館での活動」「被災地の活動」「ボランティア保険」などの検索数が増加。コーディネート状況では、講座開催月にボランティア登録者が増えている。年度替わりに登録をやめる方が多かった。昨年から、ボランティアコーディネートに要した時間数等を表記している。3月～5月の予定では、5月17日(金)にボランティアはじめて講座を開催予定。参加者が少ないため、受付期間を延長した。7月5日(金)に講座参加者の交流会を予定。「夏!体験ボランティア」の参加受付を6月28日から始める。受入施設担当者説明会の開催に合わせて「ボランティアの受入に関する研修会」を開催。受入施設の方には、地域の社会資源としてボランティア育成に協力していただいている。

委員長：質問をお願いしたい。

委員：登録を辞めた方の理由は何か。

事務局：高齢や転居を理由とする方が多い。

委員長：ボランティアコーディネートとはどのようなものなのか。

事務局：ボランティア依頼とボランティア活動者を単につなぐだけではなく、地域の方とのつ

ながりを深め、ボランティア活動に参加していただき、依頼先の活動に対して理解を深めていただき、お互いに助け合えるような関係づくりを行うこと。人のつながりを深めていくことを考えてコーディネートを行っている。また、依頼者側にもボランティア活動に対する理解をお願いしている。活動を円滑に進めるために怪我や事故のリスクについても考えていただいている。

委員：NPOからの相談についての件数がほとんどない理由は何か。

事務局：市民協働推進センターができた時に、福祉に関するボランティア活動の推進については西東京ボランティア・市民活動センター、その他の市民活動に関する相談については市民協働推進センターという機能分けが行われた。以前には西東京ボランティア・市民活動センターでもNPOや市民活動に関する相談を受けていたため、報告にNPOからの相談という項目が残っている。今後、相談に関する分類については再考したい。

委員：ボランティアの登録者とボランティア保険加入者の数に差異がある理由は何か。

事務局：ボランティア登録者以外に保険加入者がいるために差異がある。ボランティア登録者は、ボランティア保険に加入している。

委員：NPOからの相談は、市民協働推進センターで行っているのか。

事務局：ボランティアの相談で来所されても、有償活動を希望している場合や、NPO設立などの相談は、市民協働推進センターにつないでいる。

委員長：はじめて講座の参加者は何名か。

事務局：現在7名になっている。7月5日には、受講者で話し合う会を設けている。

委員：申込者の男女比はどうなっているか。

事務局：男性は2名。年齢は20代から70代までと幅が広い。

委員長：ボランティアのつどいの場所と時期を変えたのはなぜか。また、ホームページに案内が出ていない。広報の取り組みはどうなっているのか。

事務局：これまで小学校を借りていたが、障がい者用の設備が整っていないため、駅から遠くなったが田無総合福祉センターに会場を変更した。また、開催時期は4月が役員改選のため参加できない団体が出ていたため、実行委員会で時期変更を検討した。ホームページへの掲載は行なう予定。

委員長：次に昨年度の報告をお願いしたい。

事務局：事業報告書に添って説明を行う。これまでHPでの情報の刷新について、ご議論いただいた。今後もご意見をいただきたい。地域事業への参加は、PR効果を検討し参加回数を減らしている。「夏！体験ボランティア」の参加者が増えている。受入施設も増えているが、参加者がいない施設もあることは今後の課題と考えている。参加目的がしっかりしている方が多くなり、受入施設の方には好評である。「コーディネーター研修」は、昨年6市合同で2回開催したが、25年度は共同開催は行なわない予定。「傾聴ボランティア講座」は、24年度の予定には無かったが、急きょ実施した。36名受講、33名がボランティア登録を行う。その他に「点字教室」「ボランティアはじめて講座」を開催。「ボランティア懇談会」では「認知症サポーター養成講座」を開催した。「ボランティアのつどい」は、昨年は4月に小学校を借りて行ったが参加者が少なかった。車いす対応ができず、25年度は開催場所を変更した。「団体交流会」は、傾聴活動団

体を対象に「認知症の方の傾聴活動」について学習した。「軒下ふれあいバザー」を12月に実施。小学校の総合学習の時間の中で、福祉体験授業の指導をボランティアに依頼した。教材の関係で4年生の視覚障がい者に関する体験授業の希望が多い。また、都立高校の奉仕の授業の講演を受けている。コーディネートでは、「高齢者施設」「在宅障がい者」「子育て支援団体」からの依頼が多かった。子育て支援については、社会福祉協議会でも活動を支援している。ボランティア活動者支援として、ボランティア活動室の貸し出し、備品の貸し出しを行っている。また、車いすの貸し出しも行っている。年間を通じて、福祉系学生の実習生の受け入れを社会福祉協議会として行っている。事業の中で、講座参加費や備品の利用費等で、運営費の自己財源分を捻出している。事業全体として、目的がぼやけている事業もある。その効果を検討していきたい。

委員長：2012年分の報告があった。質問・意見をお願いしたい。

委員：財源づくりについて、金額が決まっているのか。

事務局：事業費の1割を自己財源で充当することが補助金をもらうときの条件になっている。社会福祉協議会全体でも財源が不足している。1割の負担も厳しい。

委員長：寄附金等が少ないということか。

事務局：会費も含めての状況である。助成金申請も申請に縛りがあり自由な動きができない。

委員：仕事をリタイヤした男性が、何かボランティアにつながらないかと思うが、いろいろと難しい。総合学習などで、仕事をリタイヤした直後の気持ちが熱いうちに活動できないものか。

委員：総合学習は、授業のねらいを持って実施している。カリキュラムと講師の内容が一致しないと実施できない。事前に講師との打ち合わせが必要なため、実現となると難しい。

事務局：授業では、それぞれの目的に詳しいボランティアに依頼している。昔遊びなどの授業では、地域の年配の方に講師をお願いしている学校も多い。去年は災害のことでお話ができる方への依頼も多かった。どのようなお話ができる方がいるかという情報は提供できると思う。

委員：仕事をリタイヤすると時間的には余裕がある。

委員：伝承遊びについては、総合的な学習の時間ではなく体験学習として扱っていて、単発的なものになっている。総合的な学習では、最後にまとめを行っている。様々な方にお話を伺うことは検討できると思う。

委員：地域活動では、様々なつながりで活動者のリストを作っている。専門でなくても趣味として活動している人もいる。その方が楽しんで参加してもらうようにしている。

委員：学習活動ボランティアでは、指導者は70代の方が多くなっている。気持ちが熱いうちに、活動に参加できることは大切と思う。

委員長：貴重な話が聞けたと思う。ニーズがあって進めていることを顕在化していくことがコーディネートにつながる。

委員：定年退職をした方に、ボランティアとしての活動の場を提供していくことが大切で、集中的にアプローチしていくことが重要。「こんなボランティアがある」という情報があると良い。また、奥様が一緒にボランティアに引っ張り出してけると入りやすい。

委員：30～40年企業で仕事していると地域に出ていくことは難しい。仕事・組織から外れたことのクールダウンがうまくやれないとボランティア活動への参加は難しい。どこへ行っても男性が参加しづらい状況だと思う。

委員：ふれあいのまちづくり事業で活動中だが、地域に関心を持っていただくことが大切。まずは参加してもらうこと。スタートはボランティア活動でなくても良いと思う。

事務局：課題として、ボランティア数がニーズに応えられるだけの登録者数になっていない。現実には登録者の中で動ける人は少ないと思う。施設からの依頼についてもなかなか応えきれていない。仕事をリタイヤした人や仕事を持っている方を対象にした企画があるが、人を集めるのが大変とのこと。どこに関心をもっているのかを検討する必要がある。趣味的なことで人を集めていくことは効果があると思う。例えば、カメラが好きな方に、高齢の方の記念撮影をお願いするなどして、ボランティア活動と結び付けることを考えたいが、ボランティア活動を前面に出して人を集めるのは難しくなっている。

委員：地域活動に出ていくのは難しい。一回出てしまえば、あとはうまくいくと思う。

事務局：一回活動に参加すると、いろいろな活動に参加できると思う。

委員：一人に声をかけるとその人がまた人を連れてきてくれることもある。

委員：講座などに参加することはハードルが高い。活動をしたいと思っている方は多いと思うが、講座ではなく、「大人たちでベーゴマやりませんか」など、ボランティア活動としてではなく声をかける方が良いのではないかと。

事務局：最近、介護的な活動として健康麻雀などの取り組みがある。趣味から入ることは良いかもしれない。

委員長：ボランティアという言い方は出さない方が良い場合があると思う。今後、団塊の世代の方々があふれてくる。人はいっぱいいるが、何かきっかけが必要となる。具体的に「こういうことができますよ」と、語りかけの雰囲気を出す方が良い。時間を作って具体的なものを考えた方が良い。今後運営委員会で検討しても良いのではないかと。

事務局：人を集めるための講座の持ち方については、運営委員会で検討していただきたい。

委員：西東京ボランティア・市民活動センターと公民館活動などのコラボ企画も良いのではないかと。

委員：毎年新しい人を探す方策は持っていると思うが、なかなか活動者は集まらない時代。時間をかけても努力の割には結果が出ないことも多いと思う。

委員：講座を開催するときは、市民団体を作ることを考えていく。どのような方向で声をかけたいのかを考えないとグループはできないと思う。対象を広く声をかけると人は集まると思うが、そこからどうしていきたいのか考えないといけない。他施設では、定年退職の方と銘打って講座を持つことがある。対象者を絞った事業が良いと思う。

事務局：シリーズとして計画していかないといけないと思う。

委員：西東京ボランティア・市民活動センターでは、遠慮がちに「よろしければ」という丁寧な声掛けが多い。やる気があるから講習も受けるので、「これお願いします」が良いと思う。

委員長：あなた自身のためになるので、自分のためにやってくださいが良いのではないかと。

委員：「来て」が良いと思う。はっきり言った方が良い。

委員：例えば、ボランティアではなく、お父さん方に防災活動に参加してもらおう。他区では、避難拠点運営協議会として声をかけ、発災の時に備蓄倉庫の管理について、地域の方の組織化を学校と協力して行っている。リタイヤする前から参加してもらえれば良いが、普段活動していなくても、ご近所で年1回の地区祭などで、豚汁づくりや餅つきなど、日曜だけの参加ならできる人もいる。災害に関する事業などで参加のきっかけをもっても良いと思うが、時間はかかるもの。

委員：西東京でも、やっとそのような活動に取り組むようになった。

委員：通常のボランティアグループと違ったいろいろな層の人が集まる場所での声掛けも検討してはどうか。

委員長：次回以降も話しをしていきたい。

4. 審 議 事 項

事務局：毎回、運営委員会の議事録を審議していただいている。

委員長：内容については、箇条書きで要点要約が良いと思う。

事務局：要点をまとめて表記していく。

事務局：前回の会議録について、退任した運営委員に対し、内容の確認を進めているが、数名の方から承認確認が取れていないため、確認後に正式なく確定稿>としたい。

2012年度第6回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録<未定稿>について、出席者で確認。退任委員からの承認をいただいたうえで<未定稿>を<確定稿>とすることとする。

5. 協 議 事 項

事務局：2013年度事業計画について説明する。重点項目として「ボランティアニーズ対応のために組織化を進めていく」「ボランティアニーズを受け止め課題解決にとりくむ」「次世代育成」などを柱に考える。

広報活動について説明をする。ボランティア活動に関心をもってもらい、活動に参加してもらえるように広報活動の工夫を進めたい。ホームページの改善も進めている。次に研修会・講習会について説明する。「夏！体験ボランティア」では、体験をした方にボランティアの登録について積極的なアプローチを行いたい。「コーディネーター研修」を「夏！体験ボランティア」の受入施設の担当者向けに実施する。「ボランティア懇談会」は、情報交換の場になっているため、継続していく。「ボランティアのつどい」は、ボランティア間の交流をすすめる、広く市民の方のボランティア活動への関心を高めていくことを進めたい。「ボランティアはじめて講座」では、「スキルアップ研修」を計画し、ボランティア登録者も参加可能にしたい。課題について。丁寧なコーディネートの実施と新規ボランティアの確保が課題となる。具体的には、若い方を対象にした企画やPTA・育成会などへのアプローチ、仕事をリタイヤした方への働きかけ、仕事を持っている方への働きかけなど、ターゲットを絞った事業が課題になっている

が具体策が出ていない。運営委員会での検討をお願いしたい。あわせて、ボランティアグループづくりも進めたい。自分たちでアクションを起こせるような動きができるグループが理想だと思う。簡単な声かけだけでは実現できないと思う。また、活動依頼者への聞き取りも行いたい、負担が無いような声の拾いあげが必要と考えている。情報の発信では、今年、社会福祉協議会全体で、ホームページのリニューアルを検討中。西東京ボランティア・市民活動センターは、単独ではなく社会福祉協議会の一部としてホームページでの情報を提供する予定。また、中期的なアクションプランの作成も検討したい。時間の制約はあるが、実現方法を検討したい。

委員長：質問、意見をお願いしたい。

委員：ボランティアの確保について伺いたい。ホームページのアクセス数から、参加したいと思う人が相当いると思う。ボランティア活動に興味がある人たちを引っ張るような企画が必要。興味を持たせるものが何なのか検討しないといけない。

事務局：そもそも情報の更新頻度が低い。限られた人しかホームページを見てくれない。また、登録については、幾つか項目を進めないと目的のページにたどりつけない。社会福祉協議会の方がアクセスする人が多いと思う。内容に斬新さがないと難しい。

委員：更新は業者がやるのか。職員がやるのか。

事務局：職員でできるものが多い。

委員：簡単に更新できるのか。

事務局：現在は、割と簡単に更新できる。

委員：ITに詳しいボランティアに更新作業をしてもらってはどうか。

事務局：可能なものはあると思う。

委員長：課題が多い。今年、やる事を絞って「これをやろう」と決めないと、課題がこれだけあると無理だと思う。

事務局：ボランティアの数が圧倒的に足りていない。そこを解決したい。課題のひとつひとつが繋がっている。その中で「講座のやり方」「ホームページの作り方」「人材の活用」などを検討したい。

委員：どのようなボランティアが少ないのか。

事務局：ニーズとしては若い力が求められている。現在一番動いて下さる方は主に60代。子どもを見てほしいという依頼が多い。他に「高齢者施設からの依頼」も多い。

委員：講座を計画するときに「ボランティア」の訴えだけだと、いろいろな人が来る。「イベントのスタッフ募集」では、何をやるのかが分からず、怖くて申し込めない人もいる。内容を具体的に書かないと参加しづらいのではないかと。今年はどこの層を増やすか決めた方が良いでしょう。

委員：ボランティアを頼んだ人にもボランティア登録を頼むような働きかけが必要。

事務局：子育てサークルのお母さん方などは、今は活動しているが数年後は子どもから手が離れる。先々は手伝ってもらいたいと思うが、どうやって働きかけたら良いのかが分からない。意見をいただきたい。

委員長：新たに西東京ボランティア・市民活動センターの課題が出された。今後も検討していきたい。

本日は協議を終了する。

6. そ の 他

(1). 次回運営委員会開催日程について

日 時 : 2013 年 7 月 9 日 (火) 18:30~20:30

会 場 : 田無総合福祉センター 4 階第 3 会議室

以上をもって、2013 年度第 1 回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会の審議を終了し散会する。